

1 単元 図書室に本のおすすめコーナーを作ろう 「広がる、つながる、わたしたちの読書」

2 目標

- 本を友達や全校児童に薦めるとい活動に興味をもち、推薦する理由を明らかにしながら自分が選んだ本を薦めようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 本を推薦するために複数の本を読んだり、自分の考えを明確にしながら読んだりすることができる。(読むこと)
- 本を推薦する文章を書いて読み合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読むこと)
- 文章に表れる表現の工夫に気付き、効果を考えて読むことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 指導に当たって

H*.*.*. 5年*組*名調査

読書に関する意識調査を行ったところ、本学級の児童は読書に関する興味・関心が高く、*割以上が「読書が好き」であることが分かった。しかし、読む本のジャンルは物語に偏っており、冊数の個人差も大きい。朝の1分間スピーチなどで行う読書紹介にも意欲的に取り組んでいるが、ほとんどあらずじで終わってしまう児童が*割程度いる。新しいジャンルの本に興味をもたせ、読書の幅を広げること、また本の内容を適切に読み取り、それに合った推薦の仕方を考えさせることが必要である。そして、本の魅力を効果的に伝えられる力を習得させたいと考えた。

読書が好きである。	*人
本の紹介をすることが得意である。	*人
よく読む本のジャンル	
物語 *人 歴史 *人 伝記 *人	
ゲームや遊び *人 動植物 *人	

本単元には、「推薦したい本を選び、図書室におすすめコーナーを作る」という言語活動を位置付けた。教科書教材「千年の釘にいどむ」は、古代の釘の見事さや、人物の生き方や考え方を読み取りやすい文章であり、普段なじみの薄いジャンルの本の楽しさに気付くことができる教材である。また、関連する本の中から推薦したい一冊を選び、推薦する方法をポスターやポップ、帯などの中から自由に選択し、読んで伝えたいことを簡潔にまとめたりキッシュコピーを考えたりする学習を行う。推薦する理由や推薦する本のキッシュコピーを考えるには、自分の考えを明確にし、それを深めていく学習過程が必要となる。そのために、友達との交流や相互評価の場を位置付けることで、自分の考えを友達の考えと比較し、共通点や相違点を見付けたり、推薦の仕方の改善点を考えたりする学習を行う。この一連の学習を通して、知識・技能を活用する力を育みたいと考えた。

指導に当たっては、まず、本の「おすすめコーナー」を作りたいという雰囲気作りを心掛ける。そして、ポップや帯などのモデルを提示し、興味をもたせたい。相手や目的、方法を常に意識させながら、話合いの機会を多く設けることで、友達の考えから自分の考えを広げるよさを実感できるようにさせる。さらに、作品の感想を交流し合い、自分の読書活動の広がりや深まりを再確認し、今後の読書生活に生かしていけるようにさせたい。

4 学習計画 (9時間扱い)

- 第1次 「図書室に本のおすすめコーナーを作ろう」という学習課題を設定し、単元の学習計画を立てる。・・・3時間
- 第2次 「千年の釘にいどむ」を読み、伝えたいことを考え、推薦文やキッシュコピーを考える。・・・3時間
- 第3次 伝えたいことが伝わるように、表現を工夫して本の推薦をする。・・・3時間

時	学習内容・活動	主な評価規準・(評価方法)
1 本 時	選んだ本の伝えたいことに合うキッシュコピーを考える。	〔読む能力〕 ・ 推薦したい本の伝えたいことに合うように、キッシュコピーを考えている。(ワークシートの記述内容)
2	下書きを読み合い、手直しをしてから作品を仕上げる。	〔言語についての知識・理解・技能〕 ・ 表現の工夫やその効果、その言葉が適切であるかを考えながら読んでいる。(下書き及び作品の記述内容)
3	図書室に作品を設置し、作った作品を読み合い、感想を伝え合う。	〔読む能力〕 ・ 本の推薦の文章を読み合い、感じたことや考えたことを比べながら、自分の考えを広めたり深めたりしている。(付箋及び振り返りの記述内容)

5 本時の指導

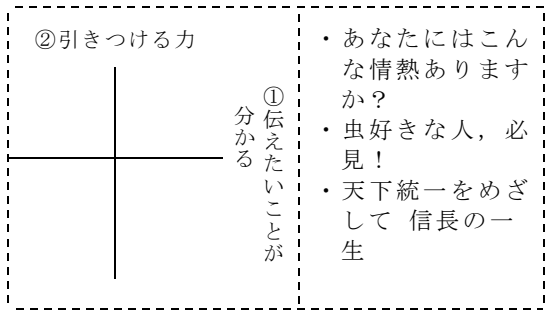
(1) 目標

推薦したい本の伝えたいことに合うように、キャッチコピーを考えることができる。
(読むこと)

(2) 準備・資料

キャッチコピーのバッドモデル、ワークシート、付箋

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。 すいせんする本のキャッチコピーを考えよう。</p> <p>2 伝えたいことを発表し合う。 (1) ペアで交流する。</p> <p>・ぼくは、虫たちの1年間の活動やおもしろい行動についてみんなに伝えたいです。</p> <p>(2) 全体で発表する。</p> <p>3 モデルを見て、効果的な推薦文とキャッチコピーの書き方について話し合う。 【書くための観点】 ① 伝えたいことが分かるか。 ② 相手を引き付ける力があるか。</p> <p>4 キャッチコピーを考える。</p> <p>②引きつける力</p>  <p>①伝えたいことが分かる</p> <p>・あなたにはこんな情熱ありますか？ ・虫好きな人、必見！ ・天下統一をめざして 信長の一生</p> <p>5 グループで交流する。 (1) 観点に沿って、3人グループで話し合う。</p> <p>「虫好きな人、必見！」 ①については詳しくは分からないけれど、虫のことだということは分かる。②については、虫が好きな人は読みたくなるキャッチコピーだと思うよ。</p> <p>(2) 変える場合は、ピンク色の付箋に自分で書く。 (3) グループで一つキャッチコピーを選び、紙に書く。</p> <p>6 全体で話し合う。</p> <p>7 学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室に本のおすすめコーナーを作るための学習であることを確認し、意欲を高めさせるようにする。 ・ペアで話すことにより、全員が自分の考えを声に出す機会を作るようにする。 ・自分の伝えたいことと比べて、共通点や相違点を見い出すよう助言する。 ・「書くための観点」を提示し、全員で確認することで意識しながら書けるようにする。 ・読み取ったことの中から、自分が伝えたいこと、驚いたこと、印象に残ったことなどを考えてキャッチコピーを作るように助言する。 ・ワークシートを用意し、相互評価の観点がいっつも確認できるようにする。 ・いくつも考えてよいことを確認する。 ・書き終わってしまった児童に対しては、「どうしてそうしたのか。」を聞くことで、根拠を明確にできるように支援する。 ・なかなか書き出せない児童に対しては、好きなところはどの部分かを聞き、そこからキャッチコピーが作れるように支援する。 ④ 推薦したい本の伝えたいことに合うように、キャッチコピーを考えている。 (読む能力) 観察・ワークシートの記述内容 ・本の内容を考えて話し合いができるように、同じ本を選んだ児童でグループを作る。 ・書くときの観点をそのまま話し合いの観点とし、話題を絞った話し合いができるようにする。 ・「伝えたいことが分かる」を横軸に、「引きつける力」を縦軸にしたチャートで、視覚的にキャッチコピーの評価が分かるようにする。 ・アドバイスを受けても、すぐに変えてしまわず、本当に変えた方がよいのか吟味するよう助言する。 ・グループで一つ選んだキャッチコピーを黒板に貼ることで、全体で共有できるようにする。 ・本時の振り返りを発表させ、次時への意欲につながるようにする。